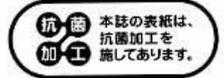


週刊朝日MOOK



手術数でわかる

がん、心臓病、脳疾患、放射線治療、
整形外科、眼、耳の病気など
疾病別のトップ病院を総力取材

全国4961 医療機関の 手術数一覧

執刀医、治療医名リスト4030人

2010

全国&地方別データブック

いい病院

信頼のランキングデータ

全国トップ977病院、
地方別トップ
1925病院を大公開

●特別対談

がん専門トップ病院の院長が語る

日本のがん医療はどこに向かうのか?

癌研有明病院名誉院長・武藤徹一郎医師×
国立がんセンター中央病院院長・土屋了介医師

●特別企画

編集部が独自に選んだ

わが街の「いい病院」

恵佑会札幌病院、仙台厚生病院、
県立静岡がんセンター、大阪市立大学病院、
厚生連佐久総合病院、済生会熊本病院



本誌は収益の一部を
日本の対がん活動のために
寄付します

2009年1～12月は膝・股関節で220件を手術

チーム医療でリハビリに取り組み 患者に低侵襲の人工関節置換術を行う

工夫と改良を重ねた器具で 膝関節や股関節を手術

市立伊丹病院の中井毅整形
外科主任部長は、工夫と改良
を重ねた器具を活用し、筋肉や
関節包を温存する、患者に低侵
襲の人工関節置換術で実績を
伸ばしている。2009年1
～12月の膝・股関節を合わせ
た手術数は、220件にのぼる。
人工関節置換術の対象とな

る疾患は、変形性関節症や関節
リウマチ、骨壊死などである。
各種要因で悪化した股関節や
膝関節の骨を取り除き、金属
やセラミック、ポリエチレン
などの人工関節に置換する。
この手術により、激痛や変形
のために動かせなかった関節
を動かせるようにし、患部以
外の関節への負担を軽減して、
歩行時のつらさや歩行距離の
改善を目指す。

コミュニケーションを徹底 患者や家族の理解を深める

術前・術後で徹底している
のが、患者とのコミュニケーション
だ。患者の中には、手
術そのものや手術後の痛みを
怖がって、人工関節置換術に
踏み切れない人がいる。この
ため、術前に3DCTを撮影
し、そのデータを基に患者ご
とに実寸大の股関節と膝関節
の模型を作製。その模型やC
T撮影画像を使って手術内容
を丁寧に説明し、患者の不安
を払拭するよう心がけている。
実寸大の模型を利用して術前
にシミュレーションをするこ
とにより、低侵襲的の確な手
術が可能になるという。

「患者さんには、手術内容は
もちろん、どんなことをした
ら痛みを和らげることができ
るか、手術で気をつけなとい
いけないことは何かなどを十
分に納得いただけるまで説明
しています。看護師や理学療
法士が中心になって、病院で



中井 毅 整形外科主任部長

なかい つよし ●1988年、信州大学医学部
卒業。日本整形外科学会認定整形外科
専門医。医学博士。人工関節を中心に取
り組んで約18年。2009年1～12月の手術
件数は、膝・股関節を合わせて220件。患
者に対しては丁寧な治療説明を信条と信
条とする



人工膝関節置換術(正面像)



人工股関節置換術(正面像)



患者とのコミュニケーションを大切にする中井医師。「患者さんには自分の実寸大の関節を直接確認できるので、非常に理解しやすいですね」



人工股関節置換術では、不要な骨棘を切除した上で人工関節を設置し、左右の脚長をチェックする

製作したDVDを見せながら、お風呂やトイレの入り方、靴下の履き方、爪の切り方といった注意事項なども勉強してもらいます。患者さんやその家族に病気や手術方法の理解を深めてもらえるよう、チーム医療で取り組んでいます」と中井医師は強調する。

MIS（最小侵襲）手術
筋肉や関節包を温存する

（最小侵襲）手術を行い、皮膚切開（皮切）を小さくして、筋肉や後方の関節包の温存を目指す。股関節の人工関節置換術の場合は、仰臥位の前側方から手術を行っている。「仰臥位の利点は、骨盤が安定し、より正確性の高い設置ができ、手術をしながら、左右の足の長さを比べて調整することも可能になります」と中井医師。前方から手術する場合、皮膚の知覚をつかさどる外側大



—昨年から工夫と改良を重ねている器具を使って手術を行う

「膝を伸ばす筋肉である大腿四頭筋をできるだけ切らない方法を選択し、大腿骨や脛骨の骨棘や関節包の処理を行い、十分な可動域が出るように心がけています。股関節、膝関節ともに小さい皮切で正確に人工関節が設置できるように器具を改良し、さらに術前のシミュレーションにより精度を高めています」と中井

「腰皮神経を損傷する恐れがあり、後方からの手術では、後ろにある筋肉を切らないと関節に達しないが、前側方からのアプローチなら中臀筋や大腿筋、梨状筋などの筋肉や後方の関節包の温存が期待できる。股関節を深屈曲する動作が多い日本人の生活スタイルを考慮し、脱臼予防に配慮した術式であるという。人工膝関節置換術も同様で、

中井毅整形外科主任部長のホームページ

<http://dr-nakai.com/>



医師は話す。患者に低侵襲の手術で術後のリハビリも容易に人工関節置換術では、患者への負担を考慮して、出血を抑えた手術を行っている。人工股関節置換術の平均出血量は400ml未満、人工膝関節置換術の術後出血量は600ml未満で同種血輸血（日赤血）は行っていない。中井医師は「合併症のリスクを極力取り除いた、患者さんに低侵襲の手術であれば、術後のリハビリテーションも容易になります。人工関節置換術の場合、術前・術後だけでなく、患者さんと一生お付き合いすることにもなりますので、責任をもって診ていきたいと思えます」という。取材/秋山晴康

市立伊丹病院

診療科目：内科、消化器内科、呼吸器内科、血液内科、糖尿病内科、循環器内科、心療内科、小児科、小児外科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、放射線科、麻酔科（佐藤純市）
受付時間：月～金 8:30～11:00 / 13:00～15:00
（受付時間、科目ごとに曜日・時間あり、一部予約制）

休診日：土・日・祝
〒664-8540 兵庫県伊丹市昆陽池 1-100
TEL.072-777-3773 FAX.072-781-9888
<http://www.hosp.itami.hyogo.jp/>



医師と看護師、理学療法士などのチーム医療で行うリハビリテーション